

第54回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミ	チーム名	もとひろ
タイトル	家庭内の男女平等を実現するには		
テーマ群	c)公共経済 e)産業・企業 f) 歴史・思想 g) その他		
メンバー	鷹尾悠希、松本樹実、大國拓人、井原朋紀、山村駿介、盛真南渡、藤井賢人、三河眞生		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>近年、日本では女性の社会進出や共働き家庭が増加している一方で、ジェンダーギャップ指数で日本は2024年で118位と、依然として男女間の格差が大きい状況である。特に家庭内での育児や家事の分担に不均衡が見られる。そこで、日本が男女平等を実現できない原因を調べ、ヨーロッパの政策を参考に、同政策を日本に導入した際の結果を考察した。それらの政策が今後の日本のジェンダーギャップ指数向上に資すると考え、「家庭内の男女平等の取り組み」を研究対象とした。</p> <p>【研究内容】</p> <p>まず、日本国内の家庭内における男女間格差の課題を調査・分析した。次に、家庭内での助け合いの重要性とそのメリット、さらには実際に行われている具体的な取り組みについても調べ、これらの知見を整理した。その後、家庭内の男女間格差と助け合いに関する取り組みを海外の現状や取り組みと比較し、日本で男女平等が進展しない要因を導き出した。さらに、海外での成功事例を踏まえ、これらの要因を解消するための具体的で実効性のある解決策を提案した。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>この研究を通して、家庭内における男女間格差の現状と問題点について明確にすることが出来る。また、他の国々の成功事例から日本が改善していくべき課題と解決策が見出すことが出来る。</p> <p>【参考文献】</p> <p>内閣府 DVの現状等について 令和2年11月27日 内閣府男女共同参画局 男女間賃金格差（我が国の現状） 内閣府男女共同参画局 (gender.go.jp)001335468.pdf (moj.go.jp) (2024年10月16日閲覧)</p> <p>男女共同参画局 2. 社会において男性が優遇されている原因 https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/ishiki/kekka2.html (2024年10月16日閲覧)</p>		